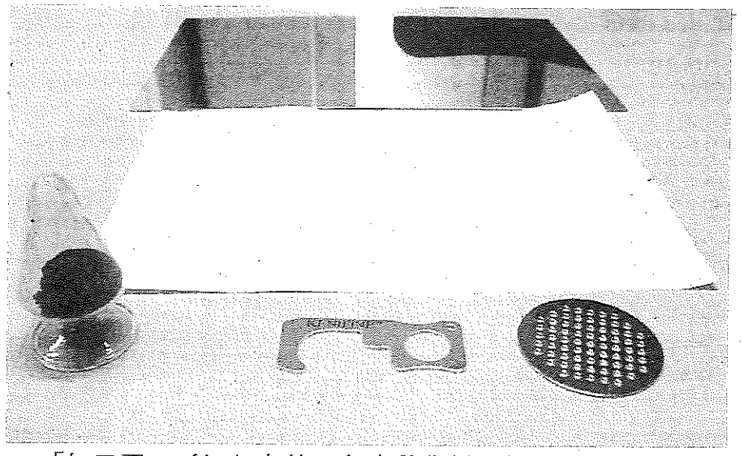
ケニファイン新たな柱に

効果10倍 抗菌メッキ

高秋化学（燕）

新型ウイルス

メッキ加工の高秋化学（燕市）が高機能抗菌メッキ「ケニファイン」の展開を強化している。一般的な抗菌材の10倍以上の効果があるとされ、新型コロナウイルス禍による衛生意識の高まりを受け、国内外のメーカーから協業の打診が相次いでいる。抗菌シールなど独自製品も相次いで投入し、主力の装飾用メッキが頭打ちとなる中、新たな柱としていく方針だ。



「ケニファイン」を使った高秋化学の抗菌製品。左下はケニファインの粉末＝燕市の同社

国内外から協業打診 シールやフック投入

ケニファインは鉄鋼大手神戸製鋼所（神戸市）が開発したニッケルを使ったメッキ技術。黄色ブドウ球菌や大腸菌に大きな効果があるほか、防かび性も確認されている。メッキ加工だけでなく、粉末化して塗料などと混ぜればさまざまな製品に使うことができる。

高秋化学は従来神鋼とライセンス契約を結んで素材や製品を生産していたが、2019年からは長年の実績が認められ、他社へ独自に提供できる権利を国内で唯一取得した。

感染が広がり始めた3月以降、同社には各メーカーからの協業の打診が例年の倍に急増。生活製品のほか娯楽施設の遊具などさまざまな提案があり、欧米やアジア各国からも要請が寄せられているという。

メッキ素材の供給と併せ、自社製品のラインアップ拡充も進めている。排水口のヌメリを防ぐプレートは例年の5倍のペースで売れており、これを受け6月にレストランのメニュー表などをカバーする大型シールや、ドアノブやボタンを操作できるフックを投入。今後も新たな製品の開発を予定している。

同社は、主力の装飾用メッキが洋食器の需要減などで頭打ちとなる中、ケニファインを新たな経営の柱と位置付ける。全売上高に占める比率を現在の約2割から33%までの引き上げを目指し、生産速度の向上や増産に向け設備投資を進める。他社との協業も、銀色や金色にデザインできる独自開発なども活用して拡充を図っていく。

高橋靖之社長は「新型ウイルスによって衛生意識が高まる中、さらに用途が広がる可能性がある。優れた抗菌性をアピールしていきたい」としている。

井上印刷（三条）も着目 名刺やパンフ展開

ケニファインの活用は印刷業界にも広がっている。井上印刷（三条市）は、インクやニスに混ぜる抗菌印刷に応用。抗菌効果のデータも独自に検証し、名刺や各種容器、パンフレットなど幅広い製品の展開に力を入れる。

同社は土産品やネット通販用のパッケージをはじめ、各種印刷を手掛ける。年間売上高は1億5千万円だが、新型コロナウイルス禍の影響を受けた5月は3割減となった。新たな需要を探る中、高秋化学が手掛けるケニファインに着目。独自に配合したニスやインクで印刷物を仕上げ、高い抗菌効果を持たせた。

井上印刷は実証データを得るため専門機関に試験を依頼。抗菌効果を自社のウェブサイトで公開している。これまで名刺や宅配用パッケージ、食品のテークアウト用ボックスなど多くの紙製品を試作し、本格的な商品展開を始めた。

池田丈美社長は「紙でできることは何でもしたい。安心安全な暮らしに向けて、この技術が役立てば」としている。井上印刷の問い合わせは0256（32）4717。

さまざまな抗菌印刷製品を手掛ける井上印刷の池田丈美社長＝三条市